

「なぜ日本に謝れと言う」朴大統領の妹、権令氏が苦言 靖国参拝批判は「内政干渉」
「元慰安婦は韓国が面倒見るべき」

【ソウル＝藤本欣也】韓国の朴槿恵（パク・クネ）大統領（63）の実妹、朴槿令（クンリョン）氏（61）が30日、「日本の神社参拝は子孫が先祖を訪ねていくものであり、100年前の先祖が悪いことをしたから子孫が参拝をしないというのは人の道にもとる」と日本人の靖国神社参拝を擁護、「韓国がそれに関与しようとするのは内政干渉である」と主張した。権令氏が同日、日本から帰国した後、ソウルの金浦空港で韓国メディアの取材に答えた。

聯合ニュースによると、権令氏は「天皇が頭を下げているのに、なぜ（日本の）首相が替わるたびに謝れと言うのか」と韓国の対応を批判。「日本は韓国の経済発展の基になることをたくさんしてくれたのに、被害意識だけ抱いては国益にならない」と主張した。

慰安婦問題については、「元慰安婦をはじめ苦痛を受けた方々に対しては、韓国国民が国内で面倒を見なければならない」と述べた。

また、「北東アジアの平和実現のために日本は親しくつきあわなければならない隣国であり、解放前の“親日”と解放後の“親日”では概念が違う」と強調した。

権令氏は現在、社団法人「韓国災難救護」の総裁を務めている。槿恵氏は2013年に大統領に就任した後、実弟の志晩（チマン）氏や権令氏を大統領府から遠ざけ、関係が疎遠になったといわれる。権令氏の結婚に槿恵氏が反対したこともあったとされる。

権令氏はこれまでも日本の重要性を主張するなど、日韓関係では肯定的な発言を繰り返している